

第１回 府中市住宅マスタープラン検討協議会
主なご意見と対応方向

主なご意見		対応方向
議事（２）第２次府中市住宅マスタープランの概要と取り組み状況		
1	資料７にある「施策の実施状況」は、各施策の実施、未実施を記載しているが、いつ、どこの部署が、どんな形で取り組んできたのかがわかるように資料提供してもらえと、協議会で議論しやすい。	関係課に確認した上で、検討協議会の議題に応じて、関連する施策の実施状況について情報提供を行う。
2	「ファミリー世帯向け賃貸住宅入居への支援」の施策に対し「全世帯数に対するファミリー世帯の割合」を示すなど、各施策に関連する指標も提示してほしい。	検討協議会の議題に応じて、関連するデータなどの情報提供を行う。
議事（３）第２次府中市住宅マスタープランの概要と取り組み状況		
3	府中市では若い世代の単身世帯がふえているのではないかと。統計データは、高齢者単身世帯だけでなく、中年層や若年層についても示してはどうか。	検討協議会の議題に応じて、関連するデータなどの情報提供を行う。
4	耐震診断の助成は昭和 55 年以前建築の建物を重点としているが、実際には平成 12 年の建築基準法改正の告示までに建てられた建物は、全体的に弱い。住宅は個人の資産ではあるが、市・都・国を挙げての支援が必要ではないかと。	住まいの耐震診断・改修の促進など、良好な住宅ストックの観点から、必要な取り組みなど協議していただきたい。
5	協働の相手となる NPO や自治会などの活動団体の情報を提示して欲しい。	検討協議会の議題に応じて、関連するデータなどの情報提供を行う。

主なご意見	対応方向
6 高齢化に対応した住まいづくりを考えていく時に、もう一つ考えなくてはならないのは、若い世帯をどう呼び込むかということではないか。「コーポラティブ住宅」のように若い人と高齢者が一緒に住まえる住宅づくりができれば、分譲住宅が費用的に買えない若い層でも、住まえるようになるのではないか。	若い世帯や高齢者などだれもが住みやすい住環境づくりの観点から、必要な取り組みなど協議していただきたい。
7 市内でも、地域によって住環境の状況がちがう。エリアごとに課題が見られると良いのではないか。	今後資料を作成する際に、できるだけ地図上に表記し、地域の状況が把握できるよう工夫したい。
8 空き家が増加しているにも関わらず、府中市は住みやすいからといって、賃貸住宅の建設が続いている。これは大きな課題と言える。	空き家ほか、賃貸住宅を含め、良好な住宅ストックの形成の観点から、必要な取り組みなど協議していただきたい。
9 住宅施策は、コミュニティに関するソフト施策と、ストック管理に関するハード施策に分けた方が分かりやすいのではないか。	検討協議会の資料ほか、当計画の取りまとめにあたっては、「分かりやすさ」を心掛けたい。
10 周辺を見ても着実に高齢者は増加している。市ではどう考えているのか。	市平均では高齢化率は18%程度と、特に進行しているとは言えないが、地域によっては進行している地域もある。今後10年先を見据えた中では、欠くことのできない課題と認識している。
11 市営住宅は住宅マスタープランの中ではどういう位置づけなのか。	市営住宅は、「住宅セーフティネット」の中心となる住宅として、当計画に位置づけたい。